

No. 189

Web-site <http://entropy.ac/>

2016年8月24日

エントロピー学会

晩秋の古都で開催します！

2016 年度秋の研究集会のご案内

福島での甲状腺がんの実態を考える（仮題）

今春、國學院大学で催された「特別セミナー」での提起を受けて、福島での甲状腺がんの問題に関してさらに掘り下げた議論を行いたいと思います。福島原発事故により飛散した放射能の影響分析を行っている市民グループの方にも参加いただき、甲状腺がんの実態に迫ると共に、これからどのように取り組んだらいいかを考えたいと思います。

何かとお忙しくなる時期かと思いますが、予定表に是非書き留めいただき、皆様のご参加を期待します。尚、プログラムの詳細につきましては、次号にてご案内いたします。

(秋の研究集会実行委員 福本敬夫)

【日 時】2016年11月12日(土) 11時00分 から 19時00分 まで

研究集会終了予定は17時30分です。

終了後、同会場にて引き続き世話人会を開催いたします。

【会 場】京都・同志社大学今出川校地 良心館3階

<交通> 京都駅より地下鉄烏丸線10分の「今出川駅」下車1番出口すぐ

※詳細は同志社大学のキャンパスマップをご覧ください。

【会 費】一般講演は無料

研究集会は 学会員 1,000円 一般参加者 1,500円 但し学生は無料

藤田祐幸さんを悼む

世話人 田中良

1983年のエントロピー学会創立発起人のひとりであるとともに、長年月にわたってエントロピー学会事務局長として学会運営の中心となってお尽力されてきた藤田祐幸さんが、本年（2016年）7月18日21時45分に永眠されました。ガンとの闘病の末でした。

藤田さんのエントロピー学会への思い入れは深く、常に言われていたことは、その運営理念でした。すなわち、会則を設けない、会費を定めない、役員選挙を行わない、の3点です。普通の学会運営の基本となるこれらの事項を否定するというところに、藤田さんの既存アカデミズムに対する批判精神を感じたものです。

しかし一方で藤田さんは、学問というもの、そして科学の可能性というものに大きな期待をもたれていたのだ、と私は思っております。「エントロピー」の概念は1983年当時、社会から注目され始めていましたが、「科学技術や諸現象を安易に説明する道具としても用いられるようになってきている」（エントロピー学会設立趣意書）という危惧が、藤田さんをはじめとして設立発起人皆さん共通の思いでもあったはずですが、権威主義的な既存アカデミズムには断固背を向けるものの、「市民の科学」を目指すうえでも、議論の科学的根拠や厳密性を重視するのにもまた藤田さんでした。藤田さんは何よりも科学者であった、ということが先ず私の思い出の中の「藤田像」です。

エントロピー学会の活動を語るにあたって、藤田さんは「地域」というものを非常に重視されました。藤田研究室（そしてエントロピー学会事務局）は横浜市港北区日吉の慶応義塾大学にありました。藤田さんは学会発足とほぼ同時に「横浜セミナー」を立ち上げました。会場の変転はありましたが、毎月第三土曜日の午後に公開セミナーが開かれました。テーマは「水」「土」「ごみ」といった身近な問題が中心です。調査、見学を兼ねた旅行もよく行いました。そのなかで1993年2月の山形県長井市への旅は楽しい思い出です。長井市では、「レインボープラン」という生ごみの堆肥化を始めとする、ごみのリサイクルと農産物の地産地消を有機的に結合させた地域循環プログラムが、市民と行政の共同作業で動きだそうとしていました。その現場を見学させていただくため、藤田さんと私たち横浜セミナーが長井市にお邪魔しました。市役所の会議室で「レインボープラン」の説明を受けた後、先方から依頼されての藤田さんによる「江戸の地域循環」の講義が始まりました。横浜セミナーでは藤田さんの話は何度も聴いているのですが、このときの藤田さんの話は黒板を前にしての学校での授業のようなかたちで行われました。聞き手は、「レインボープラン」に関わる市役所の担当職員と市民の方々、そして私たちです。藤田さんは、まず黒板に大きく関東平野と江戸湾の地図を書きました。そしてその地図を縦横に使いながら江戸の物質循環構造を説明していきました。もともと藤田さんは、話し方が上手なこと、したがって講演の上手さは天下一品であること、では衆目の一致するところだと思いますが、板書も超一級でした。後でそのことを藤田さんにお話したところ、藤田さんは「大学の研究者といっても、特に教養に身を置く場合は、きちんと教え方を研究しなければいけないし、板書は特に大事だ」と言われたことは、いまでも記憶に残っています。藤田さんは「大学教員」という「本業」を大事にされるプロの職業人でした。このこ

とから、「教師」としての「藤田像」が浮かび上がってきます。

ところで藤田さんが横浜セミナーを主宰することには別の目論見がありました。それは藤田さんご家族が当時住まわれていた神奈川県三浦市にある、小網代湾周辺の森の開発計画をストップさせる、ということです。ただし藤田さんの考えは、開発自体に絶対反対ということではなく、自然と人間が共生できる保存方法を創造しよう、というものでした。こうして藤田さんが組織した小網代の森保護組織が、宮沢賢治の描いた理想郷「ポラーノの広場」をモデルとした「ポラーノ村を考える会」でした。藤田さんは専門の物理学だけではなく文学や歴史にも造詣が深い方でした。とくに宮沢賢治の研究が本職ではないか、と思えるほどの宮沢賢治ファンでしたが、これは藤田さんのロマンティストとしての側面の現れでしょう。

このように、横浜セミナーを組織して「水」「土」「ごみ」といったことの議論を本格化させたことの藤田さんの目的のひとつが、「ポラーノ村」という自然と人間が共生できる共同体を小網代の森に創造することにあつたわけでした。「理想」を「夢」で終わらせない、「市民の科学」を実現させる現実主義者としての藤田さんがここにありました。1983年から2006年まで藤田さんはエントロピー学会の事務局を切り盛りされたわけですが、そこでは現実主義的で高度な事務能力を有する実務家としての藤田さんの側面が発揮されたといえます。

藤田さんを「脱原発運動家」と定義することは正しいでしょうし、藤田さん自身も恐らくそれを本望だと思われるかもしれませんが、私にとっての藤田さんは、まず科学者であり、そして教師であり、さらにロマンティストであり、しかも実務家でした。だからこそ、運動家としてもこのうえない活躍をされたのだと思います。もっともっと長生きをされて、私たちの道標であり続けていただきたかったのですが、残念です。

改めてご冥福をお祈りいたします。

春の研究会 開催報告

2016年6月18日の世話人会に先立ち福島原発事故に起因する甲状腺ガン多発に関する研究報告が河宮信郎会員と平井孝治会員からありました。当日は、30名を超える参加者があり、報告を基に活発な質疑応答がなされました。以下、河宮会員に研究概要を手短に取りまとめてもらいます。

(代表世話人 青木秀和)

福島事故による「被曝影響」の検証は、被曝被害の実証や対策・補償の要求など様々な問題を解決する上で必須の知見です。本報告は、福島県の甲状腺ガン多発が被曝影響であることを、年齢層別罹患率の異常な上昇を通して検証しました。

福島県の甲状腺ガン検診（1巡目）の結果、約30万人の受診者から116人の罹患者が確認され、その年齢分布が示されました。罹患者116人罹患者の事実自体が「異常な多発」を示しています。さらに、罹患者の年齢分布をみると、罹患者が10代後半に集中しており、10歳以下の罹患者はほとんどいません。この年齢別罹患者数を基礎として、①年齢別発症頻度（年当たり罹患者数）を見積もり、さらに②同齢の受診者数を算定することにより、③罹患者率を年齢別および年齢階級別に求めることができました。そして、この結果を、④＜被曝影響ゼロの場合＞の甲状腺ガン罹患者率（自然罹患者率）と比較・対照しました。自然罹患者率としては、国立がん研究センター（がん研）統計の全国平均（2008年以前）をもちいました。⑤その結果、10代以上の同年齢層で比較した場合、福島県の罹患者率が自然罹患者率の40～50倍であることがわかりました。

罹患者率を同年齢で比較したとき、福島県の罹患者率はがん研罹患者率の40～50倍に達しています。この罹患者率の過剰分が被曝影響の明白な証拠です。このように、被曝影響は年齢別罹患者率の実績値から検証されるのであり、被曝線量の推計値から見積もるのは的外れです。

さらに、ガンの罹患者率は、通例「年齢階級別」で示されますが、本研究で「年齢別」罹患者率を導き、その本質が確率関数であってガウス関数で表せることを明らかにしました。この分析法は今後、他のガン種にも拡張できると考えています。

（会員 河宮信郎）

2016年度第1回世話人会開催報告

6月18日（土）に東京・國學院大学渋谷キャンパスにおいて、本年度第1回目の世話人会を催しましたので、その席で話し合われたことをご報告します。

1. 報告事項

事務局より現在の会員数、会費納入状況、および事務局会計報告が行われた。会費の納入率が約50%と昨年度と比べて若干よくなったことが報告された。

事務局より、会計監査に関して報告があった。監査担当の二名の内、現在A氏のみより監査を受けている旨が述べられた。N氏からの監査は受け次第、「えす」にて報告することが提案され了承された。また、A氏からは特段な意見は述べられなかった（会計報告は別ページに示す）。

編集委員会より、「えんとろぴい」第77号を2月に発行したことが報告された。更に、「えんとろぴい」第78号の進捗状況が説明され、年内の発行予定であることが述べられた。会員からは、編集委員会をもっと活用したらいいのでは、という意見も述べられた。

「えす」担当世話人より「えす」の発行に関して報告があった。全般的に発行時期が遅れ気味で、対策を考慮中であることが述べられた。また、次号は8月中を目標としていることも述べられた。

Web委員会からの報告は協議事項となった。

最後にその他の事項として、昨秋の研究集会を体調不良により講演を中止された藤田さんの現状について質問が出た。齋藤さんより改めて連絡を取ってみる旨が述べられた（その後、残念な結果となってしまいました）。

2. 協議事項

本年度の世話人会体制に関して協議した。代表世話人の齋藤武光さんが2年の任期を満了されたので、代わって川島和義さんが代表世話人に就任された。これより本年度は、青木秀和さん、川島和義さんの二人が代表世話人を務められる。事務局は昨年引き続き、福本敬夫が担当することとなった。また、「えす担当」世話人に齋藤武光さんが加わり、「えす」は山見さんと二人で担当することとなった（世話人会体制は別ページにまとめてあります）。

本年度の事務局契約に関して、双方（エントロピー学会と木野環境）より変更などの申し出がなかったので、これまでと同額で本年度も木野環境に委託することとなった。

Web 委員会の今後のあり方に関しては、前回の世話人会で Web 管理を木野環境に移してはどうか、ということで I 氏と相談するということが決まっていたが、それ以後進展していないので、早急に代表世話人の方から意向を訪ねることとなった。

学会活性化の目的で、「学会ファンド（仮称）」を立ち上げて会員の活動を援助する仕組みを作ってはどうか、と福本より提案があった。提案された内容について議論し、進める方向で一致したが、より具体的な提案を次回世話人会までに行うこととなった。

今秋の研究集会と次回世話人会に関して協議した。開催地の立候補がなかったので、相談した結果、京都で開催してはどうか、ということになった。開催日時、場所に関しては、11月12、13日、または、19、20日、場所に関してはキャンパスプラザ京都や同志社大学が提案された。これに関しては、後日関西実行委員会を開いて議論し、早急に決定することです承された。また、プログラム等の内容に関しては、今回の「特別セミナー」で報告された甲状腺がんの問題をさらに深く掘り下げることが提案された。

その他の事項に関しては特段協議する事項は提案されなかった。

尚、世話人会終了後、会場を移して懇親会が催された。

（事務局担当世話人 福本敬夫）

第 34 期世話人会が発足しました

東京渋谷の國學院大学で催されました 2016 年度第 1 回世話人会において、本年度の世話人会が発足しましたのでお知らせいたします。尚、昨年度より監査担当者は世話人から外れていただいております。

(事務局担当世話人 福本敬夫)

【第 34 期世話人会名簿】

青木秀和	阿川琢磨	安藤直彦	伊津信之介	井野博満	小田博子
川島和義	黒田光太郎	齋藤武光	菅井益郎	鈴木明	田中良
藤堂史明	内藤誠	西俣先子	福本敬夫	古沢広祐	丸谷一耕
丸山茂樹	室田武	矢吹哲夫	山田國廣	山見拓	吉野太郎
和田喜彦					

(50 音順)

【代表世話人】 青木秀和 川島和義

【事務局担当】 福本敬夫

【えす担当】 齋藤武光 山見拓

【えんとろぴい担当】(編集委員会)

藤堂史明(委員長) 井野博満 菅井益郎 鈴木明 田中良
西俣先子 古沢広祐 丸山茂樹 室田武 矢吹哲夫 山見拓

【Web 担当】 伊津信之介 黒田光太郎 丸谷一耕

【会員管理・会計担当】 丸谷一耕

(*) 世話人外

【監査担当】 中村修 平井孝治

2015 年度会計報告

エントロピー学会会計報告書(2015年度)

(2015.4.1~2016.3.31)
(円)

収 入		支 出	
会費 260 (総数536人 平均6068円 納入率50%)	1,577,756	旅費交通費(打合せ、会計監査)	27,000
		印刷費(えす・えんとろびい印刷)	941,620
		事務消耗品費	4,347
書籍売上	11,830	送料	7,658
カンパ	0	振替口座手数料	1,160
受取利息	40	雑費(シンポジウム事務局への補助金)	0
寄付	115,660	雑費(会場費等)	35,062
		委託料(封入作業等)	
		委託料(えんとろびい編集費用)	100,000
		委託料(えす編集費用)	65,800
		事務局委託費用	432,000
		WEBSITEサーバー	32,000
		諸謝金(シンポジウム謝金)	0
小計	1,705,286	小計	1,646,647
前期繰越金	2,754,604	次期繰越金	2,813,243
合計	4,459,890	合計	4,459,890

(前期繰越金) - (次期繰越金) = -58,639

繰越金内訳	
郵便振替	2,616,333
事務局手持現金	13,073
ゆうちょ貯金	51,562
みずほ銀行	132,275
合計	2,813,243

証憑ならびに財務諸表と会計関連資料を監査した結果、本年度の会計担当世話人が作成した世話人会宛の2015年度会計報告は、適正妥当と認められる。

なお、予算の執行状況については、監査対象としなかった。よって、予算の執行状況については、意見を表明しない。

年 月 日

エントロピー学会 監査担当世話人

安藤 直彦



2016年

6月18日



地域セミナーから

■ 横浜セミナー同窓会

テーマ：「藤田祐幸さんを偲んで」

日時：2016年9月30日（金） 15時00分 から 17時00分

会場：男女共同参画センター横浜「フォーラム」

〒244-0816 神奈川県横浜市戸塚区上倉田町 435-1

JR・横浜市営地下鉄戸塚駅下車 徒歩5分

進行：田中良

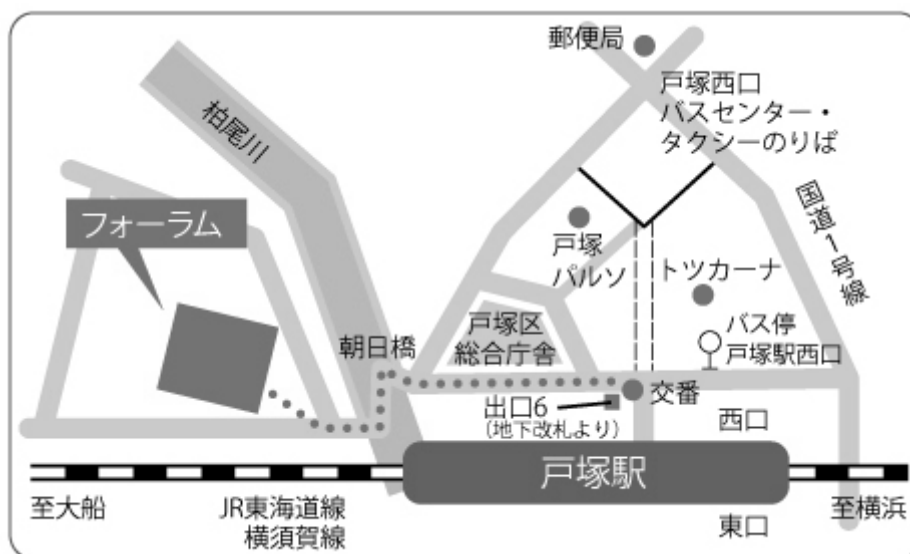
会場費：200円

なお、17時30分頃より、場所を変えて「供養の膳」を囲みたいと思います（会費5,000円程度）。また、公共施設を使うこともあり、以下のことを、特にお願いいたします。

- （1）追悼会ではなく「セミナー」として会場を借りています。したがって祭壇などありませんので、献花等もできません。
- （2）平服でお越しください。
- （3）定員50名です。飛び入り参加はできない場合がございます。

参加ご希望の方は、必ず電子メールでご連絡願います。9月4日（日）に締め切ります。重ねて申し上げますが、定員厳守ですので、参加ご希望の方は必ず電子メールで連絡をお願いいたします。

連絡先：田中良（t-ryo@msj.biglobe.ne.jp）



交通アクセス：<http://www.women.city.yokohama.jp/find-from-c/c-yokohama/accessmap/>

■お知らせ

●会費の納入について

会費の最終の入金年月日は、封筒の宛名シールに記載しておりますのでご確認ください。すでに入金いただいた方には、行き違いとなることをご容赦ください。

●エントロピー学会会則（確定版）

今号に2015年度世話人会により確定した学会会則を同封しています。会則について何か不明な点がありましたら、事務局までご連絡ください。

●藤田祐幸さんを偲ぶ会

9月30日の横浜セミナー同窓会（p.9）の他に、DAYS JAPAN主催による「藤田祐幸さんを偲ぶ会」も予定されています。エントロピー学会WebSiteに詳細情報を掲載していますのであわせてご覧下さい。

日 時：2016年9月21日（水） 開会19時00分（開場18時30分）

会 場：（東京の）北沢タウンホール2F

参加費：900円

主 催：DAYS JAPAN

呼びかけ人：広瀬隆、広河隆一（DAYS JAPAN発行人）

予約申込先：電話 03-3322-4150 FAX 03-3322-0353

メール kikaku@daysjapan.net

編集後記

私が初めて参加したエントロピー学会の行事は2002年5月の横浜セミナーでした。たしか村田徳治さんによる化学物質汚染がテーマの回だったと思います。セミナー修了後、藤田祐幸さんの研究室を訪ねて、少しお話をさせてもらったことを今でも覚えています。

シンポジウムや研究集会会場の喫煙コーナーでは、雪駄を履きどっしりと腰掛けてタバコを吸っている藤田さん、昨年秋の研究集会で予定されていた講演「学会という運動の可能性—エントロピー学会が目指したもの」を聞くことはかなわず、残念でなりません。

ご冥福をお祈りいたします。

『えす』編集担当世話人 山見拓

エントロピー学会

〒600-8085 京都市下京区葛籠屋町 515-1 電話：075-708-8063 Fax：075-708-8062

郵便振替番号：00950-5-187041 e-mail：office-k@entropy.ac